

学校教育目標	輝く笑顔 誇れる学校
目指す学校像	○生徒が、学が楽しさ、生きる喜びを味わえる学校 ○教職員が、やりがいと誇りを持てる学校 ○保護者・地域の期待に応え、信頼され、愛される学校

重点目標	1 教職員の指導力を高め、授業力の向上・充実を図り、生徒の基礎学力、学ぶ意欲の向上を図る。 2 一人ひとりを大切にされた積極的な生徒指導、教育相談活動を展開し、不登校の解消を目指す。 3 家庭及び地域との連携の一層の強化を図り、信頼され、愛される学校づくりを推進する。 4 安心・安全で「学びの場」にふさわしい教育環境づくりを一層推進する。 5 基礎体力と機動力のある組織づくりを一層推進する。
------	---

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心へのサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学 校 自 己 評 価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	【現状】 ○授業は落ち着いた環境で実施できている。 ○R6年度の全国学力・学習状況調査において「学校の授業以外に家庭等での学習時間が1時間未満の生徒」が約39.5% (県平均30.2%、全国平均35.4%) 「土日などの学校が休みの日の学習時間が1時間未満の生徒」が37.9% (県平均33.7%全国平均36.2%) 【課題】 ○家庭学習の時間は同調査からみて、R5からR6にかけて増えてはいるものの、一層の家庭学習習慣を確立させることと、内容や質の追求する必要がある。 ○学び方・教え方改革としてカリキュラム・マネジメントを教職員が自分事として捉える必要がある。	○学習機会の設定により学習習慣の定着と学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣の定着として放課後に学習支援教室を定期的開設 家庭での学習の時間を確保するために小テストの実施、課題提出、宿題等を各教科で実施 個別最適化を図るためにスタディサブリを積極的に活用 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査により生徒の家庭学習 (授業以外での学習) 時間が増加する。 スタディサブリの利用上状況が増加する。 	○調査結果 授業以外の家庭学習時間 1時間以内49.1% (9.6%増) (県・全国平均より多い) 3時間以上12.3% (6.2%増) (県・全国平均より多い) 全くしない10.5% (4.4%増) (県・全国平均より多い) ⇒二極化しているが、家庭学習の時間が少ない生徒が増加している。 ○スタディサブリ利用率 4月～11月 平均20% (市・全国平均より少ない) 夏休み 平均78% (市・全国平均より多い) ○学習習慣の定着と学習意欲の向上、自立して学習するための基礎学力の定着が必要である。	B	【課題】 ・自ら学ぶためには、学習機会の設定による学習習慣の定着と基礎学力の向上が必要である。 ・個々に応じた学びの個別最適化が必要である。 【改善策】 ・生徒の実態に則したカリキュラム・マネジメントを実施し学習機会を設定する。 ・ICT機器 (スタディサブリ等) の活用促進させる。	・学びの質の向上に向け、教員、生徒ともにやる気を感じられる。 ・チャレンジスクールに参加する生徒が多く、学習に対する意欲が高い。 ・家庭での学習時間の不足が課題である。短時間からでよいので、習慣づける必要がある。
		○教科横断的な視点を用いた授業実践のための学校全体での取り組みの推進	<ul style="list-style-type: none"> 知識の定着・活用を目指し教科間のつながりを確認するために定期的な校内研修を実施 (カリキュラム・プランの作成) 学び方・教え方改革を目指し定期的な教職員・指導方法検討会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・プランが作成されている。 学校評価アンケート項目3 (わかりやすい授業) において a の回答が教職員53%以上とする。 「学びの指標」質問項目5 (振り返り) ・6 (意欲) ・19 (結びつき) ・20 (目標提示) の結果が1回目より2回目を上回る 	○学校・生徒の実態に則したカリキュラム・マネジメントを作成できた。カリキュラム・プランを作成していく段階である。 ○学校評価結果 項目3 69% (16%増) ○学びの指標 項目5 3.4⇒3.5 0.1増 項目6 3.6⇒3.6 同数 項目19 3.3⇒3.3 同数 項目20 3.6⇒3.5 0.1P減 ○授業改善の取組は進んでいるが大きな変化として表れていないことを踏まえ、学校全体で継続して取り組む必要がある。	B	【課題】 ・カリキュラム・プランを用いた学び方・教え方改革が必要である。 【改善策】 ・カリキュラム・プランを作成するために教科を超えた議論・研修を実施する。	
2	【現状】 ○一生涯に教育活動に励む生徒が多い。 ○R6年度の全国学力・学習調査において「学校に行くのは楽しいですか」の肯定的な回答は、90.9% (前年度比+8.2%、県平均85.4%、全国平均83.8%) ○5月時点で、全欠席の生徒が2名、15日以上欠席している生徒が15名 (うち、30日以上欠席が6名) 【課題】 ○「生きる力」を一層育むために、達成感・充実感を味わうことができる生徒主体の取組が必要である。 ○「誰ひとり取り残さない教育」の実現にあたり、欠席日数が多い生徒が孤立しない支援・サポートを組織的に行っていく必要がある。	○生徒一人ひとりの状況に応じた組織的な支援・サポートの実施	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援コーディネーターを中心に、生徒の困り感を把握できる体制の構築 関係機関 (児童相談所・福祉課等) との連携を図り、個別な支援を実施 個に応じた精神的に安心する場 (Solaの一む・さわやか相談室・支援センター等の外部機関等) を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 欠席日数が多い生徒に対して、何らかの支援・サポートが施されている。 生徒指導・教育相談部会が個々の状況を把握する場となり、その対策を検討する場となっている。 	○関係機関との連携を図ることで連絡が全くとれない生徒はいない。 ○Solaの一む利用生徒の困り感を把握することを目的として、組織的な対応を体制を整えることができた。 ○生徒指導・教育相談部会が事実検討の場となり、組織的な対応ができていた。 ○週、学期、年度で学年職員・管理職・さわやか相談員・スクールカウンセラーが面談を行い、生徒の状況を把握できる体制が構築され、状況に応じた組織的な支援・サポートが実施できている。結果、Solaの一む利用生徒が教室で授業に参加できるようになった。	B	【課題】 ・個に応じた指導を実践できているが、継続していく上で人・ものが不足している。 【改善策】 ・組織的な対応を一層充実させることで、限られた資源を最大限活用できるようにする。	・Solaの一むが機能し、生徒により効果が出ている。 ・不登校傾向の生徒と学校が何らかの形でつながっていることは評価できる。今後も登校できるように関わりを継続して欲しい。 ・心のアクセラとプレーキの指導が今後重要になってくるので、外部との連携をさらに進めて欲しい。
		○生徒が主体となり取り組む活動等をもって生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自らの考えや、学んできたことを生徒が発表できる機会 (集会・学校運営協議会等) を設定 企画委員会、生徒指導・教育相談部会を事案の検討会として実施 教職員が生徒の心情に寄り添った適切な指導助言を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート項目2 (充実感・達成感) の a の割合を R6年度 (生徒73%、保護者44%) 以上とする。 学校評価アンケート項目10 (相談に応じる) の a の割合を R6年度 (生徒73%、保護者37%) 以上とする。 	○学校評価結果 項目2 生徒65% (達成度89%) 保護者28% (達成度63%) 項目10 生徒70% (達成度95%) 保護者15% (達成度40%) ○生徒は主体的に取り組むことが概ねできたという評価だが、保護者には取組が届いていないことも含めて改善する余地がある評価となった。	B	【課題】 ・生徒と保護者の評価に大きな差が生じている。 【改善策】 ・生徒の心情に寄り添った教育を一層充実させる。 ・保護者に向けて教育活動を積極的に公開することや、適したツールで情報を発信していく。	
3	【現状】 ○R6年度さいたま市学習状況調査において「この1年間に、ボランティア活動に参加したことがありますか」の肯定的な回答は29.3% (前年度比+3.3%、市平均38%) また、同調査において「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の肯定的な回答は81% (前年度比+3.9%、市平均81.7%) 【課題】 ○地域や社会をよくする意欲は多くの生徒がもっているものの、そのための具体的な行動 (ボランティア活動に参加する) 等) に結びつける必要がある。 ○生徒が、実際に行動に移すための、受け皿を地域と家庭と連携を図り構築する必要がある。	○「地域で活躍できる生徒」・「地域に貢献できる生徒」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒や保護者を対象にしたボランティア活動に関する講演会 (座学) を実施する。 「地域で育てる七里中生」としての協力を得るために、保護者や地域に積極的に教育活動を公開していく。 昨年度まで実施していたボランティア活動の継続と新たなボランティア活動を開拓する。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動の意義を生徒が理解している。(独自のアンケート調査で理解度が80%以上とする。) 新規のボランティア活動の要請を受けている。 教育活動を積極的に公開していると保護者や地域から評価を得ている。(学校運営協議会やPTA 常任委員会、保護者会、地域での会合で肯定的意見を得る。) 	○アンケート結果 ボランティア活動に意欲的に参加しているか 肯定的回答 39% ○参加生徒の感想では、自己肯定感が高まっている記述があった。 ○新規ボランティア活動要請 8か所 (前年度2か所) ○新規要請の増加もあり、ボランティア活動参加者が増加した。参加者数 延151名 (前年度 延84名) ○教育活動週間は12月と2月に各一週間実施できた ○ボランティア活動を本格的にスタートさせた年としては、概ね満足できる結果となった。教育活動の公開においても、保護者、地域から肯定的な評価を受けることができた。	B	【課題】 ・ボランティア活動参加生徒に偏りが生じている。 ・教育活動公開週間の参加人数が少ない。 【改善策】 ・生徒にとって魅力あるボランティア活動の実施 ・講演会の実施などでボランティア活動の意義を一層浸透させる。 ・適したツールで公開を積極的に周知する。	・地域がとても協力的で、生徒の健全育成に繋がっている。 ・教育公開週間など、地域を含めて積極的に授業公開の機会を増やしたことは良い。 ・生徒が、ボランティア活動に積極的に参加していた。来年度も継続してもらいたい。 ・スクリーンや学校ホームページの活用など、適したツールを活用し、保護者に向けて情報発信する必要がある。
		○学校運営協議会やPTAを軸として地域や保護者との連携を強化	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会と連携を図り、地域のニーズを掴み、生徒の活躍の場を見出す。 学校だよりや、スクリーン、学校ホームページを積極的に活用し、地域や保護者に七里中生の魅力を発信する。 小学校との連携の継続と、高校との連携を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会において、地域のニーズを掴み、生徒が協力できる場を見出すための熟議ができています。 学校評価アンケート項目9 (家庭・地域との連携) の a の割合を R6年度 (保護者41%) 以上とする。 	○学校運営協議会の熟議テーマを目指す生徒像と学校経営の重点・努力点と関連付け「地域とともにある学校づくりに関する取組」を明確にしたことで「家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く」体制づくりができた。 ○学校評価結果 項目9 保護者32% (達成度78%) ○地域の連携は強化された。保護者との連携を深めたい。	B	【課題】 ・地域のニーズが学校に届く体制ができたからこそ、持続可能な連携を図る必要がある。 ・保護者との連携強化を一層深める必要がある。 【改善策】 ・学校・家庭・地域で役割を分担し、三位一体となった取組システムをとる。 ・適したツールで学校の状況を保護者へ積極的に周知する。	
4	【現状】 ○R6年度校内アンケート (教職員対象) において「安心・安全で「学びの場」にふさわしい環境をつくるため、施設・設備の安全確保や教育環境の美化が適切に動められている」の a の回答は63% また、同アンケートにおいて「緊急時の対応マニュアル等が適切に作成され、研修などをおとして教職員の理解も進んでいる」の a の回答は73% 【課題】 ○老朽化が著しい校舎のため、修繕が必要な箇所が多数ある中で、生徒の安全面を最優先に考えた修繕計画をたてる必要がある。 ○社会の変化に伴う緊急時の対応の変化も常に求められており、かつ組織的に対応できるようにする必要がある。	○「学びの場」として、生徒の安全を最優先にした修繕を実施	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な安全点検の徹底 修繕箇所の早期発見・早期改善 (手立てをたてることも含む) 生徒の安全を最優先にした教育活動の実施 (予算運用も含む) 	<ul style="list-style-type: none"> 覚知した修繕箇所は学校が対応できる範囲は安全対策をとり、それ以外は関係機関と連絡をとっている状態とする。 校内アンケート (教職員対象) 項目柱⑤-2 (施設・設備の安全確保) の a の割合を R6年度 (63%) 以上とする。 	○老朽化が激しい中で、未着手の修繕箇所はない状態である。 ○校内アンケート結果 項目柱⑤-2 47% (達成度75%) ○「学びの場」としての安全確保はできている。	B	【課題】 ・未着手の修繕箇所はないが、修繕が必要な箇所は残っているため、早期修繕完了が求められている。 【改善策】 ・学校ができることと、教育委員会に依頼する部分を明確にして対応にあたる。	・日頃から、施設面に目配りをして改善していることは評価できる。 ・生徒の意見をきっかけに、修繕が進んでいることはとてもよいことである。 ・老朽化で生徒に危険がおよばないように、把握と早急な対応が大切である。
		○社会の変化に対応した緊急時の対応の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルに基づく校内研修の実施 様々な事例 (自然災害や、不審者侵入等) に対応した避難訓練の実施 日常的に組織的な対応をとるための報告・連絡・相談を欠かさず情報共有の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 校内アンケート (教職員対象) 項目柱⑤-3 (緊急時対応マニュアルの理解) の a の割合が R6年度 (73%) 以上とする。 	○校内アンケート結果 項目柱⑤-3 41% (達成度56%) (肯定的な評価 100%) ○社会の変化に対応した緊急時対応マニュアルについて、自信をもって理解したうえで、緊急時に対応できる状態にする。	B	【課題】 ・不審者対応訓練などに初めて取り組んだこともあり緊急時の対応が定着するに至っていない。 【改善策】 ・ブラッシュアップしながら継続・反復して取り組むことで身につくようにする。	
5	【現状】 ○R6年度全国学力・学習状況調査において「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の肯定的な回答は94% (県平均88.3%、全国平均84.9%) ○校内アンケート (教職員対象) 項目柱④-4 (服務規律に関する意識) において a の割合が63% ○時間外在校等時間月45時間超13人 (4、5月の平均) 【課題】 ○「子どもを中心とした議論」ができる風土はあるので、生徒の成長に結びつけるための指導力の向上が求められる。 ○キャリアの浅い教員も増えていることもあり、服務規律に関する学校全体として、一層の意識の向上が必要である。 ○学校全体で業務改善に努める必要がある。	○一人ひとりが課題を自分事として捉え、研修と修養につとめる意欲をもった教職員集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会主催の学力向上支援研修を実施 面談等でキャリアに応じた対話に基づく研修の受講奨励を実施 法令遵守を徹底させるだけでなく、具体的な事例を用いて「自分事」となる校内研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート項目3 (わかりやすい授業) において a の回答が保護者37%、生徒59%以上とする。 危機意識が高まり、教職員が互いに指摘・確認し合える状態となっている。 	○学校評価結果 項目3 生徒 58% (達成度98%) 保護者21% (達成度57%) ○校内アンケート結果 項目柱④-4 47% (達成度75%) ○面談や研修を通して、また安全点検や情報セキュリティに係るチェックテストなどの実施状況から教職員の課題認識や危機意識は育まれている。	B	【課題】 ・課題の認識が改善・解決を図るための行動に繋がっていくことが求められる。 【改善策】 ・引き続き、学校・生徒の実態を共有する機会を積極的に、意図的に設定し、共通理解・共通行動をとっていく。	・教員が良い環境で働けることが学校全体にとってプラスだと考える。 ・教職員がより良い授業を目指している姿勢は素晴らしいが、頑張りすぎに注意を払う必要がある。 ・これからも生徒の「わかった」「できた」のための授業改善、研究の進化を期待している。
		○教職員が健康で働きやすい職場環境づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 電子採点ソフトの導入 「定時帰宅カード」 (定時退勤をする意思表示カード) の実施 管理職と教職員または教職員同士の有機的なコミュニケーションの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェックの結果に基づき、教職員への個別の対応がされている。 校内アンケート (教職員対象) 項目柱④-5 (校務の情報化・資料の共有化) の a の回答が R6年度 (63%) 以上とする。 	○ストレスチェック集団分析結果によると良好な状態である。 ○校内アンケート結果 項目柱④-5 35% (達成度56%) ○職場環境は良好といえる状況である。	B	【課題】 ・仕事量の偏りが見られる。 【改善策】 ・分掌を任命する際に、可能な範囲での均等化を図ると共に、有機的なコミュニケーションをとり、情報の共有化を促進させる。	

学校運営協議会による評価

実施日令和8年2月20日

学校運営協議会からの意見・要望・評価等